

インタビュー

私の選んだ道

一本道でも、平坦な道でもないけれど、前を向いて歩こう。さまざまなフィールドで活躍中の、ちょっと気になる人にインタビューします。



桂まきさん

プロフィール ● 神戸市などで幼児音楽教室を運営する「音楽の杜」代表。音楽大学非常勤講師。保育園や幼稚園でも教えるほか、指導者対象の研修も行う。

「音の力」に目覚めて

リトミック教室や演奏指導で日々、子どもたちと向き合っている桂さん。「音楽を通して養ってほしいのは、伝える力」と語ります。

音大在学時、恩師に誘われて音楽療法の現場に2年間通ったのが出発点でした。「言葉をうまく口にできないアスペルガー症候群の子が、タンバリンをたたいて気持ちを表現する姿を見て、音の力を実感しました」。卒業後、銀行に就職したものの、「やっぱり私には音楽しかない」と決意。公立中学校の教師として再出発します。

そこで出会ったのは、自分の気持ちをはっきり言えず、周りに同調してしまう生徒たち。「もっと自分を出してええんやで」と、授業や部活動で励まし続けたといいます。出産後も仕事一筋でしたが、我が子が2歳になったある日、「母親はあんたしかおらへんんで」と先輩が一言。立ち止まって悩んだ末、辞職の道を選んだのです。

「自分はこう思う」と言える子に

子育てしながら思ったのは、小さいうちから自己表現力を身に付けることの大切さ。そこで、幼児教室を開こうと決心します。たった5人からのスタートでしたが、やがて熱心な指導が共感を呼ぶように。「気持ちを体や音で表せると、それが成功体験になる。できた、伝わったの積み重ねが、自信になるんです」。自分ができないタイプの子だったからよく分かる、と笑います。

間違えても、人と違っていい。あなたは どう思う? と問いかけるうち、教え子たちの発言はどんどん活発になったといいます。「東日本大震災の直後、子どもたちは、『何かしたい』と言ってきま

した。チャリティーコンサートを開いて収益を寄付したのですが、次は『ピアノを送りたい』と。今、そのための寄付を募っている最中だそう。「自分たちには力がある、やればできるんだって、子どもにはいつもそう思っていてほしいですね」。



チャリティーコンサートの1コマ

エリア情報紙



più(ぴう)は、イタリア語で「もっと」「プラス」という意
毎月第3火曜日発行

神戸の

たっぷりの味噌だれをからめて食



餃子
キャ
ニラ
北京
定番
の餃
やさ
し
と
電
宮

淡水軒
水ギョウザ 7個 550円

ブリップリの食感、エビ入りと豆腐・大葉入りを一皿で。定番はポン酢だが、3種の味噌と香辛料をブレンドした甘辛だれも美味。

- と ころ：中央区元町高架通2-138
- 電 話：078-321-1546
- 営 業 時 間：平日 12時～14時、17時～22時半
土日 12時～20時
(水曜定休)

日本人が求めた「ふ」

60数年前、祖父が渡った満州では、餃子は黒酢や赤酢につけて食べていました。戦後、神戸で店を構えはんに合う味噌だれも評判になって、ず。中国と日本の食文化が融合した味

わが家の味噌だれを作ろう

いつもの餃子のたれに味噌をプラス。砂糖、ハチミツなどの甘味を加えてまるや他に、味噌、酢と食べるラー油でピリ辛味噌、酢、しょうゆ、砂糖、豆板醤、すりおろしたニンニクを混ぜれば、風味豊かな味わいに。い